

## 教育課題検討委員会 第1回 議事概要

平成28年8月29日(月)19:00~20:00

総合福祉センター3階集会室

出席者： 検討委員（全員出席）、事務局

（課長補佐）

それでは、時間が参りましたので、ただ今より、第1回多度津町教育課題検討委員会を開会したいと思います。

（教育長）

今日はお忙しい中、また足下の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。従来から、学校・幼稚園のあり方については、多度津町において課題が山積しております。それらの教育課題を解決していくために教育課題検討委員会を立ち上げ、解決を図っていこうとするものです。

いくつかある教育課題の中で、やはり少子化に伴う学校の規模とか、配置等についても、深く先を見通して、しっかりと進めていかななくてはならない課題と考えております。しかし、なかなか前に進まないところがありました。今回こうした委員会を立ち上げて、委員の皆さまより、広く意見をいただきながら、今から良い方向を見出しに行きたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

（課長補佐）

続きまして、教育課題検討委員会委員の委嘱状を交付いたします。委員を代表いたしまして、四国学院大学教授の速水清隆委員に交付いたします。

### 【教育長 委嘱状交付】

（課長補佐）

教育課長より委員の紹介をさせていただきます。

（課長）

お名前のほう、読み上げさせていただきます。四国学院大学教授 速水清隆様です。多度津町副町長 秋山俊次様です。自治連合会会長 田中和男様です。保育所長会代表 池内順子様です。教育委員代表 山本恵美子様です。校長会代表 多度津中学校校長 新名勝様です。小学校PTA代表 洲賀崎陽子様です。幼稚園長代表 豊原幼稚園園長 野田直子様です。幼稚園PTA代表 木内敬子様です。

以上、9名の方々です。よろしく願いします。

(課長補佐)

つづきまして、多度津町教育課題検討委員会設置要綱第4条の規定により、会長・副会長を互選によって選出することとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

～「事務局一任」との声あり～

(課長補佐)

ありがとうございます。それでは、事務局案を提案させていただきます。

(教育長)

それでは、事務局案を提案させていただきます。会長を速水清隆委員に、副会長を秋山俊次委員にお願いしたい。

～一同、拍手～

ありがとうございます。異議なしとのことで、会長を速水清隆委員、副会長を秋山俊次委員とします。

(課長補佐)

それでは、多度津町教育委員会教育長より多度津町教育課題検討委員会に対しまして、多度津町における「今後の幼稚園・小学校のあり方」について諮問します。

**【教育長 諮問文読み上げ】**

(課長補佐)

それでは、早速議事に移りたい。委員会の議長につきましては、要綱第5条の規定により、会長が行うこととなっております、会長、議事の進行をお願いします。

(会長)

四国学院大学の速水と申します。学識経験者として、お声を掛けていただきましたが、私、葛原の住民でございまして、子どもたちが豊原幼稚園、豊原小学校、そして多度津中学校とお世話になり、社会に送り出させていただきました。そのご恩に報いるという意味で、この役を引き受けさせていただいた次第でございます。専門は、地理学でございまして、教育学、教育行政学を専門としている者ではございません。まったくの素人でありますので、その点をご承知いただき、皆様と一緒に、多度津町の教育課題検討という重要な案件を、進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それでは、議事に移りたいと思っております。式次第の議題の(2)までが、終えており、

(3) の情報提供を事務局より、行っていただきたいと思います。

【事務局より資料説明】

(会長)

質疑に参ります。ご質問がある方、挙手でお願いします。

(委員)

これで見ますと、全国で、3,000校超が統合をしているということですが、県内の状況もまとめていただければ。どこの市町が、統合をしておるだとか、直近で、琴平町においても検討されている。検討状況も参考になるかと思うので、情報をいただければと思う。

(会長)

これについて、事務局のほうで何かございましたら。

(教育長)

県内の状況について、次の会にはデータを出します。小学校、それから幼稚園の統廃合もありますので、しっかりとしたデータを出して、検討する素材にしていきたい。

(会長)

ありがとうございます。それでは、他には。

(委員)

先ほど、それぞれの校舎の築年数であるとかをお聞きしたけれど、だいたい何十年くらい、先ほど40～50年とか諮問の中でありました。どれくらいの年数で建替えるという基準はありますか。

(課長)

定かではないと言うと何ですが、昔は50年とか。

(委員)

耐用年数がくれば、すぐ使えなくなると言うものでもない。ただ、耐震補強をしたことで幾分かは長寿命化しますけど、傷んでいる部分なんかは「耐震したから、また50年」とか、そういうことではなくて、地震が来たときに壊れないというだけであって、そこは十分考えないといけない。

(委員)

多度津の場合は冷暖房ですかね、保護者の方から付けてほしいという声があるけど、そういうときに補強、補強でお金もかかるだろうし、「何年以内に統合したら良いか」という方針を出したほうが良いと思っています。耐用年数について、聞いたのは、そのへんのことを考えてお伺いしました。

(会長)

それも踏まえて、今後どういう形で、どこをどう統合するであるとかを考えたほうが良いということですね。

(教育長)

それと、さっきの年数というのは、よく50年、60年言われるけれど、はっきりしたものはないと思う。50年経って今の校舎の現状を見てみると、本当に大きく改修が必要な部分もあって、その都度、補修、補修で相当な金額を使うということも事実なので、そのあたりにすばやく対応するとしたら、統合とか、新しく改築するとしたら、どういう形、どれくらいの規模で作ったら良いのかということに、話が移っていく。

(会長)

今後の、次回以降の課題ということで。

(課長)

エアコンの設置についてなんですが、一応、小学校には来年度に設置予定となっている。設置箇所については、普通教室、特別支援教室を考えており、あと、音楽室、図書室、理科室、校長室にも設置する予定です。来年工事ですので、使用できるのは再来年度からとなると思う。

(会長)

これだけ子どもの数が減っていると、余裕教室というか、空き部屋が幾分出現しているのですか。

(課長)

諮問文の中にもあったのですが、人口の偏りというのがありまして、減少が、各地区によって隔たりがあるものですから、正直に言うと、多度津小学校では余裕教室はあるとも言えます。ただ、人口の増えている豊原小学校は教室の数が足りないとか、そういう状況になっています。

(会長)

豊原小学校も一番多いときと比べると、人数が減っている傾向が見られるが、一クラスの学級定員も少なくなっているという影響もありますか。

(課長)

その影響もあるかと思います。

(教育長)

それと、特別な教室というのが、少人数指導であるとか、新しい利用目的に応じて教室を転化していくこともあります。

(会長)

今のエアコンの設置というのは、空き教室も含めていますか。

(課長)

いえ。空き教室には、設置しません。

(委員)

適正規模と耐震化の兼ね合いと言いますか、教育長さんの考えとして、どう思っているのか。古いから潰す、子どもが少なくなったから学校をなくするとか……。これはどちらなのか？

(教育長)

ここの中（文科省手引き）にも書いてある通り、基本は、学校というのは、一定の人数がいて、ともに学びあったり、社会性を深めたりする場だから、子どもの人数が極端に少なくなって、それが維持できなくなったとしたら、統合とかそういうことも考えていくことになります。ただ、ここにも書いてあるのですが、地域との関係と言うか、学校が地域の活性化の核になるという考え方もできると思うので、そのあたりが非常に難しいところだと思います。子どもの健全な育ちとか、学習・生活のために、どういう規模の学校がどこに配置されていくべきかを考えることは重要なことです。

(委員)

わかりました。では、今回の検討委員会は、その適正規模を探るという目的ですね。

少し偏った話になりますが、私は、白方なので、去年幼稚園の募集停止をするか、せんかという話が出まして、急にそれが出たので、言い方が悪いですけど、すったもんだがありました。その中で、1学年が5人ですか？

(教育長)

6人。園児集団にとって重要な目安ということですが、法的に決められているわけではありません。

(委員)

学校教育というのは団体生活をするうえで、複数人数いなければならない。そうになると、白方の場合は、それだけの人数が幼稚園で確保できないという状況になってきている。我々が、なんぼ頑張っても子どもがいなかったら、幼稚園を残してほしいということも言えない。おのずと、幼稚園はなくなる方向かなと思ったのですが、この予測では数年後には、少し人数が戻っている。

(事務局)

資料3の幼稚園の幼児数推移予測ですが、黄色で塗ってある今年2016年から、1958年までが実際に在籍した園児数。そこから3年先までは、実際に生れているお子さんが幼稚園にあがったとして、そこには当然、保育所に入るお子さんも考慮しています。その推計で、白方幼稚園は、2017年が7名、2018年が5名、2019年が5名ということになっており、それ以降2020年からのデータについては、人口問題研究所というところのデータを参考にしました。

(委員)

データ(の参照元)がちがうということですか。

(事務局)

はい。

(課長)

こちらの算出の仕方、出させていただいた数字ではあるので、ちょっと乱暴な出し方のデータにはなっています。

(委員)

保育所と幼稚園の現行も割合について配慮しても良かったかもしれない。

(教育長)

ちなみに今現在は、白方幼稚園については、複式学級を実施しています。年少と年中が一緒になっており、年長が別クラスです。

(委員)

さきほど、幼稚園も小学校の推移も言えるのですが、相対的な数字を出していただいているが、1年ずつの細かい内訳がいます。小学校1年が、5年後には6年生に上がってくるわけで、全体の推計より具体的にわかりやすいし、1学年が何学級になっているかもイメージしやすいと思うので、小学校ごとに。白方だと、地区でいうと、東、西、奥、それから見立とかあるのですが、そういったところ、通学であるとか、どの地区から何人と言うのもある程度つかんでおかないといけない。統合するにしても遠いところからたくさん通っているのか、近いところから来ている子は少ないとか、そうすると状況も変わってくるので、そのあたりも掴んでおかないと適正配置というのは、より詳細なデータも踏まえたうえでないと検討が出来ないし、答申を作ったとしても説得力が出てこない。事務局のほうで、十分データを集めていただいで、次回以降お願いします。

(教育長)

一応、文科省の標準というのは、押さえておかないといけないと思いますが、学級数は12学級から18学級と言うことで、1学年に2学級以上です。

(委員)

固定化させないということですね。

(教育長)

それが文科省の出している標準の一つで、通学距離のことも出ていて、小学校だと4km以内、中学校だと6km以内というのが適正だという標準というのは出ていますが、それから手引きを読んでいくと、地域の実情というか、そういうのも勘案していかないといけないと書いてあります。

(委員)

2年前にも、通学区域の検討会をしました。そのときにも、自由区を作るということで、そうすると、堀江と道福寺とかが主たるところとなっていくわけですが、あと、もう少し古い時からでは、白方では崖下(現在の東白方城ヶ下)が、多度津小学校にも行っている人がおると。これも、暗黙の了解と言いますか、そういうところも含めると、将来的な数値の把握ということは難しい。

(教育長)

それらの地域については、もともと何もなかったところが、宅地造成されていって、その宅地が、どこで線を引くかということについては、住民感情もあって地域感情というのもあるって、地域に踏み込み細かい線引きをすることは難しいという現状もあるのだと思います。

(会長)

資料整理して、その地域については、多度津に何人、白方に何人行っているのかというところを示していただきたい。

(委員)

行政区としては、白方に何人おる、多度津に何人おるといので判断しづらい趨勢があって、決め付けられんところがあります。その適正規模を判断する数値そのものもちょっと掴みづらいところがあります。

(会長)

ひとまず、細かい地区単位で、人数を拾っていただきたいということでいいでしょうか。それから、もう一つ、人口の流入流出というのは、さらに掴められたら良いかと思しますので、それが通年の傾向で、どのような状況にあるかというのも、提供していただけたら。

(委員)

町としては、流入を増やしていこうとしていますが、まだ各校区平等に増えていくとかいうまでは。

(委員)

そういうデータは前のときも出ていませんか。豊原地区なんかは、家がたくさん建っている。そうすると、そこには子どもがついてくる。

(委員)

最近では豊原だけでなく、四箇も結構、団地ができていますよね。三井あたり。

(委員)

増えていると言えば、豊原ですね。

(事務局)

住民票のデータで抜くと、大字ごとのデータは抽出できます。ただ、委員さんがおっしゃったような、東白方のような二つに割れる地区については、人口はわかっても、どちらに行くかまではそれぞれ判断なので、わからないところもあります。

(委員)

この自由選択という校区も、実質、近所にいながら、かたや豊原かたや多度津とい



うかたちになると、子ども会とか地域のお祭りとかにも支障が出ているところもあります。あの時も、すごく、この校区の問題というのは、町内全体の校区の見直しということだったら、まだ納得できるのですが、そうでなかったのだから「豊原に行けると思って家を建てたのに」と言う方たちがすごくいたのでね。そういう検討をする会の中に幼稚園とか小学校の保護者には情報が入っていたけど、保育所の保護者にはまったく情報がなかったし、保育所の所長会に連絡がなかったのだから、私たちも保護者のほうから、「どういうこと」と聞かれてわからなくて、逆に私たちが保護者に「どういうこと」と聞いて教えてもらって、ということになって。やはり働く保護者の増えてきているということで、保育所もニーズがあるというのは事実だと思っています。幼稚園の将来的な数値を見ていると、全体を合わせても、すごく少ない数字で、もしかして、これって幼稚園1園で対応されたほうが良いのではという感じがしました。

(委員)

おっしゃるとおり、現実に白方であった話では、お母さん方の都合で、時間の問題があるので、保育所に行くという方が圧倒的に多い。それなら、幼稚園の人数が減ってしまう。こういう人数になってくると、幼稚園をなくするつもりなのだろうか。我々は、そう感じてしまうのですけれどもね。

(会長)

そういうところは、慎重に検討する課題であると思います。他に、資料説明についてのご質問は。

(委員)

資料④から後の耐震化、建築年の資料がありますが、新耐震基準というのは、昭和56年以降は新しい耐震基準ということで、それより前の建物については早くする、ということなのか。

(課長)

委員がおっしゃる旧耐震基準の建物については、耐震診断を実施しまして、その結果、耐震をクリアしているという建物も、幼稚園の場合はいくつかありました。その結果、そのようなところについては、耐震工事はしないというかたちになっております。

(会長)

他にないようでしたら、6の事務連絡、今後の予定・計画について、事務局からお願いしたいと思いますが、

(課長補佐)

今後のこの会議の予定・計画についてお知らせします。事務局といたしましては、多度津町の総合計画の基本方針を、29年度で策定する方針ですので、それに併せまして来年の夏ごろまでに、答申していただきたいと考えております。また、会議の間隔につきましては、2ヶ月に1回程度の間隔での開催を、お願いできればと思います。ということで、次回については10月の末頃の開催で、御案内をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(会長)

これについて、いかがですか。2ヶ月に一度というペースで来年の夏まで進んで行く、そして次回は10月の末ごろ行うというのが、事務局からの提案であります。皆さまはどうですか。よろしいですか。そのようにしていただきたいと思います。他には。

(課長補佐)

この会議の内容的なものについての公表についてですが。

---

情報の公開については、この後、審議し、各委員の意見をもとに、次の方向で進めることとした。今後は、さらに詳細について整理し事務局より提案することにした。

- ① 検討委員会は原則非公開とする。
  - ② 議事録は要約した形で公表する。
  - ③ 委員名は公表する。
- 

(教育長)

会を進める中で、これはどうしたらいいかということが、また出てきたら、次回にお伺いをさせていただきます。

(会長)

それでは、第1回の検討委員会は、これで終了させてもらおうと思います。あとは、事務局のほうに返させていただきます。

(課長補佐)

速水会長、お疲れ様でした。委員の皆さま、今日は貴重な意見をありがとうございました。そしたら、また10月にご案内をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

では、第1回教育課題検討委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上、散会